

平成23年度箕田小学校校内研修計画

研究主題	学び合い，考えを豊かにしていく子どもの育成
教科 領域等	国語

1 主題設定の趣旨

本校では、「心豊かで明るく実行力のある子の育成」を学校教育目標に掲げ、これまでその具現化を図ってきた。

本校の子どもたちは、明るく素直であり、朝のあいさつなども進んででき、高学年が低学年の見本となるような行動を取ることができている。また、1学年2クラスでこじんまりとしており、同じ学年の子とは学校生活の中で何らかのかかわりを持っている。しかし、子どもたちがお互いをよく知っている分、自己表現をしなくても一部の子の意見で物事が進んでいったり、お互いの意見がすれ違っていることに気づかなかったりする場面が多々見られる。

そこでここ数年は、研究の焦点を教科学習に絞りながら、授業の中で自分の考えと友達の考えとの共通点や相違点を見つけ、自分の考え方をより確かにし、自ら問題を解決していく子どもの育成に力を注いできた。また3年前からは、特に「かかわり合う」ということに焦点を当て、「学び合い，考えを豊かにしていく子どもの育成」と研究主題を置き、国語を中心に研究を進めてきた。

「子どもにつけたい力」やそのための「指導の重点」を明確化し、めざす子どもの姿をより具体的にすることで、教師自身が日頃の授業の中で大切にしていかなければならないことの共通理解を図ることができ、それを常に意識して取り組むことができた。

またCRTを全学年で行い、子どもたちの学習内容の定着度の「強み，弱み」を客観的データをもとに探ることにより、子どもたちにどんな力をつけていくか、そのための手だてをどうしていったらよいかを話し合ったり、共通なものはそれぞれの学年の発達段階に応じて全学年で取り組んだりしてきた。

そういった日頃の授業を大事にした地道な取り組みの結果、「課題に対して自分の意見をもち、それをしっかりと伝え、受け止め、考えをより豊かにしていく」といった学び合いの姿勢が身についてきた子が全学年を通して徐々に増え、またそのための学習規律も自ずとできてきた。

しかし、そういった成果が見られる一方、それが全体のものになっているかという点はまだまだといった感がある。例えば、自分の考えを持つことや持っていたとしても表出することが苦手な子、自分の考えを言いつばなしで終わってしまったり、自分から友達と考えを深め合おうとしない子など、「学び合い，考えを豊かにしていく」域にまで到達できていない子どもも多々いる。また教師側も、授業の中で多様な意見が出ているのに出し合うだけで深め合うための手だてを施さなかったり、理解が曖昧で全体のものになっていないのに適切な問い返しがなされないまま、次の展開に入っ

まったりすることもあった。さらに多様な意見を有効に板書等で整理されないまま、授業が終わってしまうこともあった。

そこで本年度も引き続き、「学び合い、考えを豊かにしていく」とは、「自分の考えをためらうことなく表出し、友達の考えをしっかりと受け止め、共に高め合い、自分の考えをよりよいものにしていくこと」と捉え、このような子どもの育成をめざすとともに、授業の中で子どもたちが育つための教師の有効な働きかけを深めていくために本主題を設定した。

2 授業の中で「学び合い、考えを豊かにしていく」とは…。

授業の中で子どもたちが「学び合い、考えを豊かにしていく」とは、具体的に子どものどういった姿と捉えるか。それは子どもが初めにもっていた考えが、授業後にどのようなになっているかということを考えていくと明らかになる。

- ① 初めにもっていた自分の考えが友達の意見を聞くうちに考え直し「違う意見に変わった」という場合。
- ② 自分が初めに考えていた意見が、友達の意見を聞き、違った視点からみた根拠を知るうちに、自分の意見が揺らいだり、確信が持てなくなったり、混乱したりしてわからなくなる場合。そしてさらにそこから自分の考えを問い直していく場合。
- ③ 初めの自分の意見は変わらないが、友達の意見を聞く中で、自分の意見の根拠が多様になり深まり、自分の意見に確信が持てる場合。

これらは、自分の考えがどのように変わったか如何にかかわらず、授業の学び合い中で自分の考えに揺さぶりがかけられ、考えの根拠が多様になり、深まったり確かになったりしていることになる。

3 子どもにつけたい力とその手だて

では、そういった授業を成立させていくために、子どもにつけたい力とはどんなことか。やはり昨年同様以下の5つが大切であると考えます。

1つは、よく考え、自分の考えを持つ力である。学び合うためには、まず、課題に対して、どんなことが問われているのかしっかりと把握し、よく考え、自分の考えを持つことが必要だと考える。そのためには、課題に対して自分の考えを根拠を明らかにして書かせる過程を持つ、自分の考えを持って授業に臨む等の手だてが必要である。

2つは、自分の考えを伝える力である。自分なりに持った考えをどのように表現すると、考えていることが伝わるのかよく考え、声の大きさを考えたり、言葉の順序を入れ替えたり、言葉を選んだり、組み立てを考えたりといった方法の学習し、習得していくことが必要だと考える。

3つは、友達の考えをよく聞き、受け止める力である。友達の考えをいったん自分の中に受け入れ、友達がどんなことを言おうとしているのか考え、友達の表現の意図を汲み取ることが必要だと考える。この力がついていくことで、伝える側にとっては、何でも話せる安心感が生まれるのではないかと考える。

4つは、友達の意見にかかわりながら、自分の考えを見直す力である。自分の考えに固執したり、友達の考えに流されたりするのではなく、自分の考えと比べてみることで、「その通り」と共感し

たり、「自分の考えとはここが違う」と相違点を見つけたり、「そんな考え方もあるんだ」と新しい考えに出会ったり、「こんな考え方もできる」とこれまでとは違う考えを見つけたりし、考えがより豊かなものになっていくと考える。

5つは、上記の4つの力を支えるための基礎学力をつけることである。CRTの結果や日常の学習での子どもの様子から、音読、反復学習や読書指導など、何が必要なのかを考え、共通取り組みを充実させることで「読む」、「書く」、「話す・聞く」といった基礎学力をしっかりとつけることができ、子どもの学びもより自信を持った積極的なものになっていくと考える。

4 指導の構え

授業の中で、「学び合い、考えを豊かにしていく」ためには主に次の6つの点を大切にしていきたい。

① 教材解釈

自分なりに教材をそのように捉え、分析し、子どもにどんなことを考えさせたり、身につけさせたりすることができるかなどしっかりと教師が持っていることで、子どもの考えの曖昧な部分を見抜いたりそれに対してどう揺さぶればよいかを把握したりできると考える。教材解釈は、まず一人一人がしっかりと行わなくてはいけないが、自分のはっきりしないところは部内や全体で考え合うことで、自分だけでは気づけなかったより多様な視点の分析が得られると思われる。

② 課題の設定

学習課題は子ども達にとって聞かれていることが明確なものにしていくことが必要である。だから、教材研究の中で、課題を考える時に、こう聞いたら、子どもたちはどのように答えてくるのか、子どもの意見の予想を常に考えながら、課題を立てることを大切にしていきたい。課題としては、子どもたちの興味・関心に沿ったもの、発達段階にあっているもの、様々な考えが持てるもの、既習事項とつなげて考えられるもの、発展性（広がりや深まり）が期待できるものが有効と考える。

③ 子どもの考えや実態の把握

授業で子どもの意見をどのように絡み合わせていくか、どこの部分でどの意見を登場させるかなどの授業展開を考えるうえでも、まず子どもがどのような考えを持っているかをあらかじめ書き込みなどの書く作業を通じて、しっかりと把握しておくことが大切である。

④ 授業展開（発問・問い返し）

子どもたちが意見を出し合う中で、新たな発見をしていけるように授業展開をしていくことが大切である。新たな発見とは、前述のように子どもが最初に持った考えを、友達と学び合う中でより多様な視点の根拠を持った意見にしていくことで自分の考えを確かなものにしていくことである。そのために、友達の考えが自分と同じだと共感することも新たな発見の一つと捉えたい。また子どもたちの考え方に広がりが見られない時や子どもたちが意見を出し合うだけで、互いの違いや共通点に気づいていないと感じた時に、どんな問い返しが有効になっていくのかを探っていくことが必要である。また指導者がそのような姿勢をしていくことは、やがては子どもたち同士で友達に聞き返すような姿につながっていきけると考える。

⑤ 学習形態

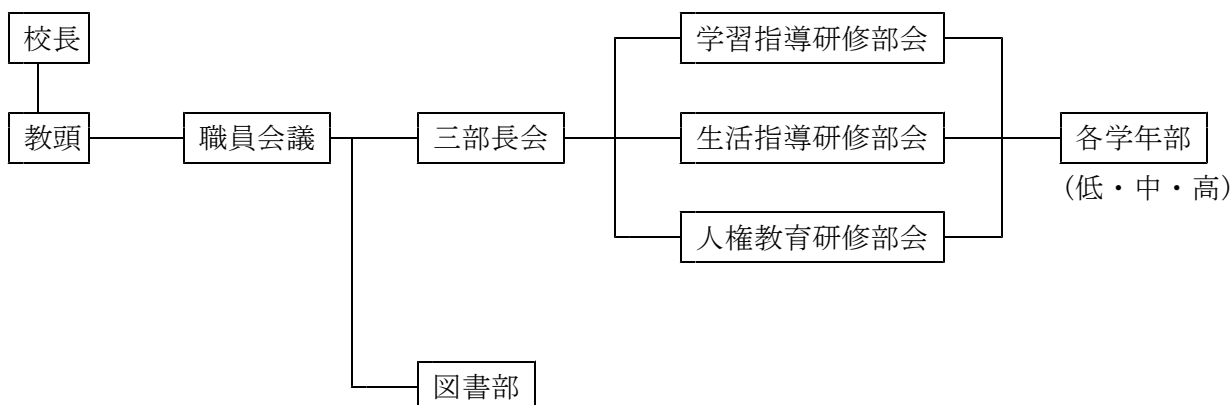
子どもの中には、自分の意見はもっているのだが、集団の中で自分の意見を表出させることが苦手な子もいる。そこでより多くの子の考えや意見を引き出させるために、一斉授業だけにこだわらず、生活班や同じ意見の子どものグループといった小集団での話し合いなど、その場その場に応じた学習形態をとっていく柔軟性を持たせていくことも必要である。

⑥ 板書

板書は、子どもの多様な意見を整理し、つなげ、明確にしていくためにも大切なものである。そのため、教材分析や子どもの考えを事前に把握することにより、ある程度の板書計画を立てておくと、話し合いの中で子どもの考えがより豊かに深まっていけると考える。

上記のような指導者の姿勢を教師が研修し合い共通理解を図っていくことで、教師の授業力は高められ、より子どもに還元されていくと考える。

5 研修組織



6 研修委員（学習指導研修部会）

森下やよい(1年) 福田薫(2年) 稲森照代(3年) 岸原靖子(4年) 宮崎美知(5年) 神原亜矢子(6年)
(宮崎利子)

副・会計 鈴教研 長 評価 記録

7 研究授業について

原則として全学級が研究授業を次のように計画していく。

① 全体で見合う：低・中・高学年部でそれぞれ1つ（学級）教科は国語（文学教材）

- ・ 事前検討会，事後検討会も全体で行う。
- ・ 事後検討会では，講師の先生に来ていただく。

② 低・中・高学年部で見合う：上記以外（学級）

- ・ 指導案検討会は授業者の意向に合わせて各学年や低・中・高学年部でもつ。学習指導研修部会のメンバーを中心に調整していく。
- ・ 事後検討会は授業参観者で行う。
- ・ 司会・進行は学習指導研修部会のメンバーで行う。
- ・ 研究授業をする1週間ほど前までに日時・教科等を各学年部の学習指導研修部会のメンバーまで知らせる。

7 日常的な授業の見合いについて

- ・ 学期に1～2時間程度、時間の一部（5～15分）でも良いので、学年で互いに授業を見合う。
（指導案の有無は任意）
- ・ 学期始めに、学習指導研修部の先生が中心になり、その学年の国語科の研修重点教材を決める。
- ・ 年間学習計画一覧表の中の重点教材に $\textcircled{\text{重}}$ という印をつけておく。

8 指導案について

- ・ 実際に授業をされる先生の独自の視点で各学級ごとに作成する。
- ・ 作成時に、各学年や学年部などでの話し合う機会を大事にする。
- ・ 基本の形式
 - <全体で見合う場合>
以下の形式
 - <低・中・高学年部や各学年で見合う場合>
略案 … 単元・題材名，目標，学習計画，本時の目標，本時の学習又は以下の形式
- ・ 特に形式にこだわらず、よりよい形式があれば、その形式で作成する。

第〇学年〇組 〇〇科学習指導案（A4サイズ）

日 時 2011年〇月〇日（水）第〇限 於 教室
指導者

1. 単元又は題材名

2. 目標

（1）（2）などと番号をつけ、いくつか箇条書きにする。

「～できる。」 「～するようになる。」などと子どもの立場で書く。

3. 単元又は題材について

（1）教材解釈

- ・ 自分なりの教材分析。どんなことを考えさせたり、身につけさせたりすることができる教材なのかを書く。

（2）大事にしたい活動

- ・ 子どもにつけたい力や具体的な方策（手だて）とかかわって書く。
- ・ 本時で大事にしたい活動については、「本時」と記す。

4. 子どもの様子

5. 学習計画（全○時間）

6. 本時の学習

- (1) 本時の目標
- (2) 準備物
- (3) 学習過程

子どもの活動	具体的な手だて

8 レポートについて

年度末に今年度の研究紀要をまとめ、それを来年度の紀要につなげていきます。各先生に、一年間の取り組み及び研究授業の指導案と事後検討会をふまえた「成果と課題」をレポートしていただき、冊子にまとめたものを研究紀要として作成していく予定です。詳しくは、2学期に提案しますが、1学期からの、子どもにどのような取り組みや対応をしてきたかなどの分析した記録等、残しておける資料は全て残しておいてください。

9 年間学習計画一覧表について

- ・ 昨年度の紀要を参考にして、本年度も各学年で作成する。
- ・ 年度末に実際に行ったものにうちかえ、紀要に載せる。
- ・ 出入りの授業の年間計画については、各学年で相談してください。あゆみや評価規準の見直しを考えながら進めて頂けるとよいかと思えます。

10 年間研修実施計画

毎学期：学習指導に関わる研究授業の指導案検討・研究授業・事後検討会

重点教材の授業の見合い

年間学習計画表の見直し

随時：研修主題に関わる学習会

人権教育・特別支援・生活指導・学校経営品質など、学習指導以外の研修会

1学期：本年度や今後の研修内容を学校教育目標と照らし合わせ、生活指導、人権教育との関連を図りながら吟味

年間学習計画の作成 総合的な学習の目標設定 評価規準の設定 あゆみの作成

CRTの結果分析

研究授業の設定
学期ごとの重点教材の設定
研究主題に関わった学習会
学級の実態レポートの作成，報告会(8月)

2学期：研修還流報告会

3学期：成果と課題の検討及び研究紀要の作成(学習指導研修，人権教育研修)

※ 研修会で取り上げるとよい内容があれば，随時，学習指導研修部会までお知らせ下さい。

<以下のことを期日までにお願いします。>

- ・ 専科の先生，服部先生はそれぞれ，低・中・高学年部のどこかに分かれて所属してください。
決まったら，岸原まで報告してください。 … 4/18まで
- ・ 学年部会を開き，全体研究授業の授業者を決める。研究授業のおよその時期と題材を決める。
… 4月中
- ・ その他の研究授業についてはおよその時期を，題材と合わせて決めておく。
- ・ 学習年間計画表の作成(含 総合の目標)：5/10
- ・ 1学期の重点教材を決める：連休明け
- ・ あゆみの学年での検討：早い内に
- ・ 評価規準の作成：5月末まで

..... <切り取り>
<記入して 岸原机周辺の袋まで御提出ください。>

研究授業について

()年()組 名前()

()月の(第 週)頃，

(全体 部内)研究授業実施予定です。

研究授業予定

教科 (国 語)
単元・題材名 ()

